



2015 February

No.511

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

“ブルーリボンキャラバン もっと知ってほしい大腸がんのこと 2015 in 人吉” 開催



去る2月8日（日）、当院講堂 どうあんにて『ブルーリボンキャラバン もっと知ってほしい大腸がんのこと 2015 in 人吉』がNPO 法人キャンサーネットジャパンとJCHO 人吉医療センターの共催で開催されました。大腸がんの診断・検査から、外科的治療・薬物療法について、広く一般の方に知っていただくことを目的として開催される講演会です。熊本大学生命科学研究部消化器外科学教授 馬場秀夫先生と済生会熊本病院腫瘍・糖尿病センター部長 境健爾先生をお招きし、当院からは木村正美院長、生田義明先生、南秀明 MSW が参加されました。木村院長は『大腸がんになっても慌てない』という演題で、大

腸がんの総論について講演されました。馬場先生は『大腸がんの外科的治療とその後の生活』という演題で、大腸がんの治療における3本柱のうちのひとつ、外科的治療についての講演をされました。境先生は『大腸がんの薬物療法（抗がん剤・分子標的薬）』という演題で、薬物療法と緩和治療についての講演をされました。一般の方にもわかりやすい内容だけでなく、最新の研究結果や治療方法なども交え、我々医療者にとっても勉強になる講演でした。南さんからは相談支援室の使い方、就労やお金のことについての説明がありました。その後来場者からの質問に対し、生田先生の司会でパネルディスカッションが行われました。

医療関係者だけではなく、一般の方々の参加も多数あり、用意されていた席だけでは足りずに追加で席が用意されるほどでした。人吉球磨地域の方の健康に対する意識の高さを感じられる、良い講演会でした。

熊本大学医学部附属病院 臨床研修医 前田 和也
(人吉医療センター 協力型 1年目)



【ブルーリボンキャラバン】 もっと知ってほしい大腸がんのこと 2015in 人吉 アンケート結果

ブルーリボンキャラバンのアンケート結果の一部を掲載いたします。当日は99名の方が参加され、内52名の方からご意見を頂きました。(回収率52.5%)

(1) 今回のセミナーを知ったきっかけ

① JCHO 人吉医療センター内の掲示・スタッフからの案内にて	48.1%
② ほかの病院でのポスター掲示・フライヤー配布にて	15.4%
③ 共催団体「がんサバイバーネットワーク」のWEBサイトにて	3.8%
④ 友人・知人に誘われて	9.6%
⑤ マスメディア(新聞・雑誌等)、市役所にて…など	27.0%

(2) 参加者の内訳

① 患者	3.8%
② 患者の家族・友人	23.1%
③ 医療関係者	44.2%
④ その他(MR・一般・院内ボランティア・ポリプあり 等)	21.2%
無記入	7.7%

(3) セミナーへの参加目的

① 自分が大腸がんだから	1.9%
② 家族や知人が大腸がんだから	13.5%
③ 大腸がんに関心があるから	55.8%
④ 講演者に関心があるから	19.2%
⑤ その他	11.5%
無記入	3.8%

(4) セミナーの満足度

① 大変満足	57.7%	④ 全く満足していない	0.0%
② まあ満足	30.8%	⑤ どちらとも言えない	1.9%
③ あまり満足していない	1.9%	無記入	7.7%

患者、家族、友人、医療関係者など様々な立場の方が参加され、数多くの感想をいただきました。いただいた感想の中から一部をご紹介します。

* 10数年前、家族の者がリウマチが原因による大腸切除手術を受け、看護師さんの指導のもと洗浄を施した経験を持つ一人です。本日は有意義なセミナーに参加させて頂き感謝に堪えません。私自身目下のところ便秘で苦しんでいます。(患者)

* 実母が大腸がんでした。そのためかどうか、自分も数年前から毎年大腸ポリプが出来、毎年切除しています。自分もいつ大腸がんになるか不安なところではありますが、これからも毎年健診を受けて生きていきたいと思いました。早期発見。(患者家族)

* 非常にわかりやすいご講演で「大腸がん」について学ぶことができました。大腸がんでは人工肛門になるものだと思っており、手術の進歩が勉強になりました。手術だけではなく抗がん剤も選択肢が増えており、本当に最後まであきらめないことが重要であると感じました。検診も早期に受けて周囲にも進めていきたいと思います。(医療関係者)

* 早期発見となるためにも、集団検診を受けることが第一だと思いますが、がんになっても治ることが分かり、少し安心しました。それでも「がん」と診断されたら不安になると思いますので、本日の研修を参考することに致します。(その他)

適切な医療や看護の提供を目指して

～「看護必要度」の正しい知識・評価能力向上の取り組み～

皆さんにとって、「看護必要度」は聞きなれない言葉と思います。看護必要度とは、患者に提供されるべき看護の必要量を測る指標です。平成14年度の診療報酬改正で「特定集中治療管理料」の算定要件として重症度の判定基準として導入されました。平成20年度の診療報酬改訂では、一般病棟で7対1入院基本料の算定を行っている病院は「一般病棟用の重症度・看護必要度」のデータ提出が必須の条件になりました。診療報酬改訂の度に変わってきましたが、とりわけ平成26年度改正では「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度」と名称の変更や内容の変更があり、病床機能の明確化と機能に合わせた評価を徹底することを目指した内容になっています。患者の重症度や看護の必要性を厳格に評価し、それに応じた適切な場所で、効率的で質の高いケアを提供する為にも「看護必要度」についての正しい知識と評価能力の向上が求められています。

そこで、当院では平成26年より評価レベルの質を統一する為に、「看護必要度」研修や試験を実施しています。合格点は90点以上とし、2年毎の更新制度を導入しました。研修は同一内容年1回、試験は4回実施し、64%の看護師職員が合格しています。また、監査も導入し適切な評価が行われているか、きちんと記録に残しているかなど質の評価も導入しました。これからは急性期から在宅医療まで、切れ目なく適切な医療や看護を提供できるように研修を重ね、患者さんが安心して治療できる病院を目指したいと思います。

手術室 看護師長 渡辺 朋子

平成 26 年 救急外来状況報告

人吉球磨・えびの小林・大口伊佐地区における急性期病院として、「断らない救急」を基本方針に、この地域の一次および二次救急患者を受け入れています。

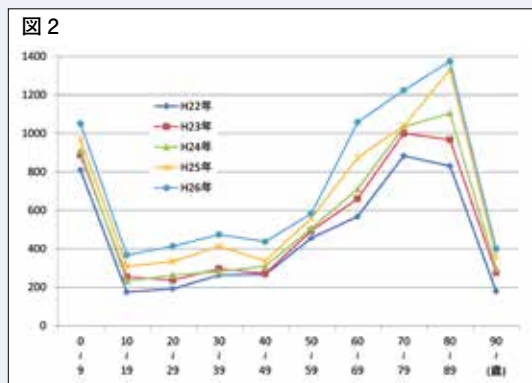
救急患者数は年々増加しており、平成 26 年は救急外来受診者 7379 名、救急車 2758 件を受け入れました。(図 1)

図 1



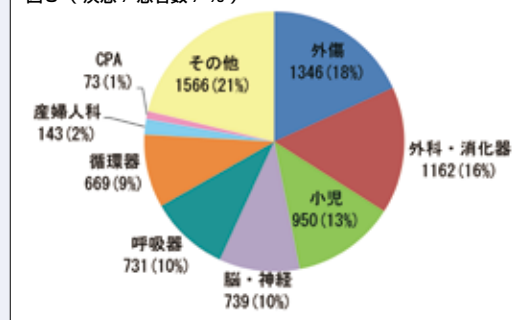
年代別では 80 歳代が 1374 名でトップ、次に 70 歳代 1224 名、10 才未満 1050 名でした。高齢者と子供の救急患者が増加しています。(図 2)

図 2



疾患別の患者数は外傷 1346 名、外科・消化器 1162 名、小児 950 名、脳・神経 739 名、呼吸器 731 名、循環器 669 名、産婦人科 143 名、CPA (心肺停止) 73 名でした。(図 3)

図 3 (疾患 / 患者数 / %)



救急外来のスタッフは指導医 1 名と研修医 1 名の 2 名が当番制でほぼ常駐し、必要に応じて各科の医師を呼ぶ体制をとっています。また、当院には現在 2 名の救急認定看護師がおり、平日の日勤帯は救急外来に常勤しています。

救急外来は平成 25 年 5 月に完成した新診療棟の 1 階の南西部分にあり、初療室が 2 室、小外科手術が行える初療室 1 室、診察室 1 室、観察用ストレッチャー 5 台分のスペースを確保しています。また CT 室、心カテ室、IVR 室が隣接しており、緊急検査や治療が迅速に行えるようになっています。新棟の屋上にはヘリポートを設置し、転院搬送やドクターヘリ受け入れに対応します。

救急医療のレベルアップをはかるため、救急に関する研修会、症例検討会、JATEC 勉強会等を定期的に行っています。また、救急委員会を中心に当院全職員を対象とした院内 BLS 講習を開催し、院内急変対応のレベルアップをはかっています。その他、地域住民を対象とした小児救急対応 (天使のちえぶくろ) や心肺蘇生法 (命のエレキテル) の出前講習などのボランティア活動も行っています。

また、医学的観点から救急隊の病院前活動の質を高めるメディカルコントロール活動を行っています。救急担当医は下球磨消防組合救急隊と直通の PHS を持ち、指示や助言を行います。また病院前活動の事後検証、救急に関する研修会、救急救命士の病院実習受け入れを行っています。その他公的災害訓練や救急フェアへの参加、前述した地域へのボランティア活動などを通じて地元の消防組合との連携を深めています。

救急医療はがん診療、予防医療とともに当院の診療三本柱の一つであり、今後も需要が増大すると考えられます。この地域のニーズに応えるように今後もソフト面、ハード面ともに充実を図っていきます。

副院長 下川 恭弘

かかりつけ医をお持ちですか？



当院では、患者さんに通常の診療はかかりつけ医療機関、開業医の先生方におかかりいただき、より専門的な診察や高度な検査を必要とする場合に医療機関の先生から当院へご紹介いただくシステムをとっています。これを機能の分化といい、国が医療の方針として推進している取り組みの一つです。このシステムをとることで、必要とする医療を広く地域の皆さんに提供することができます。

現在、242 名の地域の先生方に人吉医療センターの登録医としてご登録いただき、当院の新導入機器や診療体制などを随時アナウンスし、開業医の先生方と当院が連携を行い患者さんが安心して医療を受けることができる体制を整えております。

また、外来診療は新患・再来の全て予約制となっております。特に新患の場合には、事前に症状を伺い、診察時に検査をあらかじめ組み込むなど、患者さんの負担が少なく効率の良い医療の提供ができるように取り組んでおりますので、まずは予約センターまでお電話ください。

【予約センター TEL : 22-1900 (平日 8 : 30 - 17 : 00)】

地域包括ケアに向けて

現在 人吉・球磨地域では、とやまクリニック 外山裕二先生を会長に球磨地域在宅医療連携体制検討会を開催しています。当院からは、当院外科 西村卓祐先生、赤池看護部長、sw岡本が委員として参加しています。

今年度の取り組みとして、①市民公開講座、②多職種研修会、③情報誌の作成、④ケアネットの活用（インターネットでの情報の共有）を計画しています。

今回、その中の取り組みの一つである多職種研修会、公開市民講座を開催いたしましたのでご報告いたします。

【1月19日 多職種研修会開催】

多職種研修会は、在宅医療の専門員のスキルアップを目的とした研修会です。1月19日第1回目の研修会を西村卓祐先生司会の下、人吉医療センターで開催しました。

まず人吉球磨地域がどのような現状にあるのか、今後の方向性をしっかりと把握するために、熊本県保健所 小宮智 保健所長より「在宅医療・介護連携の推進に向けて」という演題で全国と比較した人吉球磨の現状についてお話いただき、人吉保健所総務福祉課 馬場麻梨子 主事の演題「人吉・球磨の在宅に関する社会資源について」では、具体的に地域で利用できる社会資源についてご紹介いただきました。また、訪問看護ステーション愛生会 管理者 入江祐公様に、「症例発表～多職種で関わった一例」をご講演いただきました。H24年の熊本県の県民調査では、治る見込みがないと宣告された場合に、5割弱の人が「医療機関の支援を受けながら自宅で療養する」ことを希望しながら、家族への負担や急変時の対応に不安を覚え、自宅で最後を迎えることができないと考えている人が多いことも示されました。

研修会には院内外から90名の関係者が参加し、アンケートでは、総論から各論へ、より具体的な課題の抽出と解決策を考える研修会の開催を求める意見が多く見受けられました。

【1月31日 公開市民講座開催】

地域包括ケアを推進するにあたっては、実際に自宅で療養を受ける市民への情報の発信、啓発活動が必要です。1月31日 人吉カルチャーパレスにおいて淀川キリスト教病院理事長 柏木哲夫先生をお迎えし、市民公開講座を開催しました。



柏木先生は、早期から緩和ケアの視点から患者さんへの医療の提供に取り組まれておられ、その豊富な経験に基づき「在宅での生きざま・死にざま」という大変に興味深いテーマで約1時間にわたってご講演いただきました。

その他、地元の劇団「しゅんなめじょ」による寸劇、IT紙芝居、西村卓祐先生もシンポジストとして参加したシンポジウムが行われ、最後まで住み慣れた地域生活を送るための在宅サービスについて、わかり易く学ぶことができました。

地域の一部ではインフルエンザによる外出の自粛もあり、参加者が少ないのではないかと懸念されましたが、750名以上の参加がありました。このことから、多くの住民の皆さんが「どのように生き、最後を迎えるのか」に高い関心をもっておられることが伺えました。

住民の皆さんが満足できる地域包括ケアを提供する体制を作るには、関係者だけではなく多くの住民の皆さんに地域包括ケアに関心をもっていただき、参加していただくことが必要です。住み慣れた地域で安心して最後まで生活できる環境づくりのためにこれからも、様々な取り組みがなされます。当院も地域の関係機関と力を合わせて地域包括ケアシステムの構築に取り組んでまいります。

医療福祉連携室 社会福祉士 岡本 理恵

清流ハートクラブ（心臓リハビリテーション患者会）開催

12月25日、1月22日の患者会は2ヶ月に渡り食事の勉強会を開催しました。

クリスマスに行われた患者会は、普段自宅で作られている味噌汁の塩分測定や減塩弁当を囲んで座談会を開催し、1月は「食事と運動の関係」と題して管理栄養士より講演を行いました。

座談会では「こんなことをやっている」「家の方が薄味だ」「もう少し見直さないと」などこれまでの振り返りや患者さん同士の情報交換場となり、講演では「運動・食事どちらも重要でお互い補完しあうことでより効果的である」という話に熱心に耳を傾けられていました。

心疾患の再発予防のためにも食事、運動などの生活習慣を見直していくことは大切ですが、特に食事は生きていく上でなく

てはならないものであり、その中で今まで培ってきた食習慣を変えていくことは容易なことではないと思います。そんな中患者会に来られる方の話を聞くと、とても頑張られている様子が伺え、また、同じ境遇の方々が集まることで励ましの場にもなっているように思います。



患者会を通して患者さんが元気に楽しく在宅生活が継続できるよう、これからもスタッフ一同支援していきたいと思っています。

清流ハートクラブ事務局 社会福祉士 金栗 由佳

*当院では様々な患者会やがんサロン（乳がん患者会、清流ハートクラブ、糖尿病教室など）患者さん同士のふれあい場や学びの場を提供しています。興味のある方、話を聞いてみたい方など気軽にご参加ください。

～3月開催のお知らせ～

- ◆がんサロン：平成27年3月18日（水）13時～ もちの樹（2階患者図書室）
- ◆清流ハートクラブ：平成27年3月26日（木）14時～ どうあん（3階講堂）
- ◆糖尿病教室：平成27年3月11日（水）15時～ 研修室（要連絡）

問い合わせ先：医療福祉連携室・相談支援センター

思 春 期 講 演 会 開 催

平成 27 年 1 月 28 日（水）人吉市立第三中学校において当院産婦人科部長 大竹秀幸医師による思春期講演会が開催されました。受講された生徒さんの感想を掲載させていただきます。



僕は思春期講演会の話聞いて、わからない言葉が少し分かったのがよかったです。性のことも少しは分かりました。女性は大変だとあらためて知りました。また僕が将来病気になったら、パートナーと一緒に病院に行って相談したいです。自分の体の事が気になるけど、今は思春期だと思って、毎日を過ごしていきたいです。また、悩みがあったら、家族か先生、病院の人に相談したいです。

女性はやすぎの性もダメ、遅すぎの性もダメだから、大変だと思いました。育てられて人間になることもあらためて知りま

した。もしも将来赤ちゃんを育てるようになったら、大切に育てて、いい人にしたいです。出産などは命がけだからこわいなと思いました。動物の世界と人間の世界は同じという事が初めて知りました。子孫を残していきたいです。今日あった思春期講演会の事を思い出して、今からの生活に生かしたいです。また、命を大切に今からの生活を送ってみたいです。

人吉市立第三中学校 1 年

私は今回の思春期講演会でお話を聞いて初めて知った病気の名前や、その写真を初めて見たので少し怖いと感じました。

また女性の体の仕組みについても、自分自身の身体の中があんなふうに複雑なつくりになっている事もよく知らなかったの、出産の時の大変さなども感じ、赤ちゃんが出てくる映像を見たとき、「痛そうだな」と思いました。また、女性だけでなく男性にも性についてのなやみはたくさんあるという事がわかりこれからの社会で、男女がお互いに性について理解をしあっていくことも、とても大切な事だと感じました。

また、自分自身でも自分の体についてよく知り、感染症などを防ぐために、病院などで調べてもらったり、予防をすることもすごく重要な事だと思いました。今回大竹先生のお話を聞いてみて、性に関して興味が湧いたりすることは人間の生理現象で何もおかしい事ではないよ。という言葉を引きいて、みんな同じなんだなあと感じ、また今回、異性の性について知ること大切だと思いました。これから自分が人生を楽しく生きていけるように知識を生かしていきたいです。

人吉市立第三中学校 3 年

初期臨床研修（地域医療）

今回の実習は4日間ということもあり救急外来や訪問看護同伴、五木診療所での診療見学、呼吸器外来陪席が主な実習内容となりました。

救急外来では研修医の先生方が救急隊からの第一報を受け、対応などについて主体的に意見されているのが印象的でした。他の研修病院では第一報を研修医が対応することは少ないため、医師としての臨床力には大きな差ができるのではないかと思います。救急隊到着後の対応においては、異なる診療科の先生方が対応について頻りにディスカッションされており診療科間の隔たりが無く、連携が非常にスムーズであり、素晴らしい職場環境だと感じました。

私が目指す理想の医師像は、医療過疎の村で育った父の影響もあり、地域に貢献できる医師というものです。しかしどのような形で貢献すべきなのか・貢献出来るのかということに対して、明確な答えを医学部の5年になった今でも持つことは出来ていませんでした。

そこで、百聞は一見に如かずの諺のように、地域医療の現状や問題点などを実際に見て、その答えに近付けないかと考えました。そのため今回の地域医療実習を選択し、県南で中核病院として機能しているさらには地域の診療所も運営されている人吉医療センターで実習させて頂くことにしました。

医学部の教育では、見学ではなく実践的な実習を目指して近年改革が行われて来ておりますが、中核にあるものは依然として知識の習得にあります。地域の医療の問題点に関しても座学はありますが、それもあくまでも知識でしかなく、実際に自分がその中でどのように医師として関わるのかという能動的な観点ではありません。その点、今回の実習にて自分が如何に地域

訪問看護や五木診療所などは地域性を反映しており、診療の合間には現状の問題点などを説明していただきました。人吉医療センターの医療圏が広がっており、負担の軽減や医師の絶対数不足など様々な問題があることがわかりました。

呼吸器外来陪席では診察・診療しなくてはならない患者数が多く、忙しく対応されていましたが、説明など非常に丁寧にされていました。

研修医の先生方の研修の様子や上級医の先生方との関係性など、実習を通して見学でき、研修先としての人吉医療センターを体験できたのも非常に有意義であったと思います。先生方や事務の方に細かいところまで対応して頂いたため不自由なく実習ができました。ありがとうございました。

熊本大学医学部医学科5年 小澄 将士

との関わりを持つべきか、今後どのように学習していくべきなのかという事に対して、ヒントを頂きました。また、地域の特性についても改めて考えるきっかけを頂きました。例えば、五木村診療所では本数の少ない帰りのバスを考慮し診療をされるなど、大学病院などの都市部とは異なる配慮が必要と改めて学びました。

その他にもここでは書けないほど多くのことを学ばせていただきましたが、今自分が最も思うことは、地域の現状を学ぶ上で、実際に見にくることが如何に大事かということです。その事を先輩に伝えたいと思います。

田浦先生をはじめ、多くの方にお世話になりました。この場をかりて御礼申し上げます。短い期間でしたが、とても有意義な時間を過ごさせて頂きました。

熊本大学医学部医学科5年 宮澤 壮太

笑って健康促進！
第109回 翔の会開催！

平成二十七年一月開催分の句をご紹介します。
どうぞ鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十七年一月分

- 過疎の町昔ばなしが落ちている 比呂志
- 百均の安い物安い割りには重い 比呂志
- ヘそくりが出ていきました孫の手に レイ
- さむ空に耐えて飛ぶ鳥宿あるの レイ
- ストレスをかけるな今日は休肝日 保義
- ストレスをためないために散歩だよ 保義
- ストレスは笑いで飛ばせ怖いから 佐津子
- ストレスは見えないだけに超怖い 佐津子
- ストレスも元気に変わるその笑顔 智子
- 母入院長い休暇だと思おうよ 智子
- ストレスは脳ストレッチたのしもう 緋紗
- 神さまのけんかは神にまかせたら 緋紗
- やりくりのストレス猫にいやされて 圭子
- つまずいて足元見れば何もなし 圭子

次回も第四木曜日に本館二階図書室で開催致します。ご自由にご参加下さい。
投稿のみの参加もできます。院内設置の投稿箱にご投稿下さい。

新 任 紹 介



はら まりこ
原 真理子 (手術室・看護師)
最終卒業校：国立熊本病院附属看護学校
趣味：バスケット
生活信条：大切なものを大事にする
自分の性格：マイペース、ドジな面多々あり…



なかがみ なつみ
中神 奈津美
最終卒業校：九州厚生年金看護専門学校
趣味：写真を撮ること
モットー：笑顔 笑う門には福来る
生活信条：整理整頓、心も整頓
長所：明るい
短所：心配性
自分のコマーシャル：地元人吉に帰省して働くことになりました。よろしくお願いします。

購読雑誌 電子化のお知らせ

Chest Tier2	Journal of Orthopaedic Science
Journal of The American College of Cardiorogy	Critical Orthopaedics and Related Research
Circulation	Neurosurgery
British Journal of Surgery	Anesthesia and Analgesia
Annals of Surgery	Radiographics

平成27年1月～上記洋雑誌が電子書籍購読になりました。
購読手続きが済んだ雑誌より、図書室等にて閲覧方法をお知らせしていきます。

2月の勉強会報告

2月8日(日)ブルーリボンキャラバン もっと知ってほしい

大腸がんのこと 2015in人吉

「大腸がんになっても慌てない」

人吉医療センター 木村 正美 院長

「大腸がんの外科的治療とその後の生活」

熊本大学大学院 生命科学研究部 消化器外科学

馬場 秀夫 教授

「大腸がんの薬物療法(抗がん剤・分子標的薬)」

済生会熊本病院 腫瘍・糖尿病センター 坂井 健爾 部長

「相談支援室の使い方」FAQ お金のこと／就労のこと」

人吉医療センター がん相談支援センター 南 秀明

社会福祉士

「Q&Aパネルディスカッション」

2月23日(月)人吉・球磨 救急・集中治療セミナー

「救急医療・特に敗血症に対する我々の取り組み」

岩手医科大学 医学部 救急医学講座 遠藤 重厚 教授

2月26日(木)第73回乳腺カンファレンス

「巨大腫瘍に対し集学的治療を行った乳癌の3例」

人吉医療センター 矢立 雅章

がん化学療法認定看護認定看護師

「乳腺のMRI診断について」

人吉医療センター 放射線科 米永 和真先生

2月のフレッシュマンセミナー報告

- 2/5 政井美佐子 「岩手・大阪旅行について」
- 2/12 田山志穂 「京都・大阪旅行について」
- 2/19 田山あかり 「ひな祭りについて」
- 2/26 神田尚美 「緩和ケアのイベントについて」

